

産廃中間処分業許可取得

高品質リサイクルプラント完成

丸興産業株

丸興産業株（小野寺靖代表取締役）は先月二十日、県の産業廃棄物処分業の許可を取得、収集運搬業はすでに昨年十月に取得しており、同社が誇る県内最大規模の「リサイクルプラント」の受入・販売・収集運搬業務が一層軌道に乗るものと期待される。

二十世紀は、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会システムが生活を豊かにしてきたが、同時に環境に大きな負荷を及ぼし、様々な問題を提起した。このため、廃棄物の発生抑制や、再利用など企業のゼロエミッションへの取り組みを普及拡大、リサイクル社会の創生が求められている。同社は、こうした社会的なニーズにこたえるため、このたび県内最大規模の東京ドーム約一個分四万五、〇〇〇㎡（空造成森林・第二マ庭石（伊達石・商標登録ストックヤード含む）のり済）販売土木工事業（県リサイクルプラントを砕石工場敷地内に完成させ、バー



＝ リサイクルプラント全景 ＝



県内最大規模の4万5,000㎡確保



社員全員で完成記念撮影

丸興産業株の小野寺靖代表取締役は、本紙のインタビューにこたえ、業界をとりまく現状や展望などについて次のように語った。

◇ ◇ ◇

記者 これまでの事業内容などについてお聞かせ下さい。

小野寺 昭和四十七年に砕石業として登録認可を受け、その後役三十年、建設資材の取り扱いや関連業務を行ってきました。時代はしばらく前からリサイクルの方へ流れが変わってきており、私もこの流れに乗るため業務を少しずつシフトさせているところで

す。記者 大規模なプラントを拝見しましたが、高品質、を前面に出していますね。

小野寺 はい、そのとおりです。高品質なものを提供することにより、工事現場でのトラブルが発生しないよう気を使っています。社

リサイクル定着へ

員がそれぞれの立場でリサイクルプラントの創設に知恵を出し私以上にがんばってくれました。公共工事のみならず、リサイクル材促進の概念は今後一層定着していくものと思っています。次の課題は建設資材再利用かも知れませんが、記者 建設業界とリサイクルについては、

小野寺 建設業界がリサイクル材を使いたがらないのは品質が悪く、劣化しているからです。新材を混ぜれば品質も上がり現場の施工性も良くなり、ロスが省ける、そのニーズにこたえていきます。記者 納入の実績はいかがですか。

小野寺 三陸復興道の現場に納入しています。国土交通省、県、市町村関連の指定工事に納入し、実際に使っていただけて幸い好評を得ております。



インタビュー

代表取締役 小野寺 靖氏